



地球大学アドバンス 第42回

2011.7.25 (月)

[コミュニティ・セキュリティの再構築] シリーズ②

“首都圏大震災—予防減災への課題”

“3.11”東日本大震災は「未然形」の震災である。

被災地の復旧と支援に専念すればよかったこれまでの自然災害と違い、今回の震災は東北の復興と同時に、日本全国の近未来の震災・津波リスクへの対処が急務である。“壊されたら直す”という災害先行型の国から、“未然に被害を最小化する” 予防減災の国へと脱皮できるかどうか、日本の未来を大きく左右する。

特に今回、東北に比べれば軽微な被害で済んだにもかかわらず100万人規模の帰宅困難者を出した東京首都圏の「脆弱性」は誰の目にも明らかだろう。だが首都圏直下型地震、東海・東南海地震の発生が近未来に現実視される中で、その被害想定と防災対策は十分というにはほど遠い。

『巨大地震の日』、小説『M8』などで著名な高嶋哲夫氏は、近未来の首都圏大震災の被害想定ベースに、いまだに関東大震災や阪神大震災のデータが使われていることに疑問を投げかける。東京は23区内だけでも人口は阪神大震災の被災地域の6倍近く、JR利用者数は17倍で、朝夕のラッシュ時には200万人を超える人々が電車の中にいる——そんな時間帯に巨大地震や津波が起これば、これまでの東京都や政府の中央防災会議の被害想定ではおよそ済まないはずだ。地下鉄の浸水や地下街での火災（酸欠）など、従来型の震災の死傷者想定をはるかに超えた様々なリスクも考えねばならない。

3.11東日本大震災は、大量の帰宅困難者を出すといういわば予行演習を通じて、「東京のコミュニティ・セキュリティの再構築」という百年来の国家的課題にとり組む最後のチャンスを与えられたと考えるべきだろう。4つのプレートの境界線上に位置する世界最大のメガシティに生きる者として、「いま、そこにあるリスク」を正面から見据えてみたい。

ゲスト：高嶋哲夫氏 1949年生まれ。岡山県玉野市出身。慶応義塾大学大学院修士課程修了。



日本原子力研究所（現、日本原子力研究開発機構）研究員を経て、カリフォルニア大学に留学。日本推理作家協会、日本文芸家協会、日本文芸家クラブ会員。1994年『メルトダウン』で第1回小説現代推理新人賞を、1999年『イントルーダー』で第16回サントリーミステリー大賞・読者賞をダブル受賞。2007年『ミッドナイトイーグル』が松竹・ユニバーサル映画による日米共同製作で映画化。2010年には『風をつかまえて』が第56回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書（高等学校の部）に選定されている。

1995年、神戸で阪神・淡路大震災に被災して以降は、『M8』『TSUNAMI』『東京大洪水』『巨大地震の日』（全て集英社）、『アニマート』（漫画原作。週刊ヤングジャンプにて連載）、『巨大地震の後に襲ってきたこと』（宝島社）と、様々な形を通して防災に関する啓蒙も行っている。

開催概要

日時：2011年7月25日(月曜日)

18:00 受付開始 / 18:30 開演 / 20:30 終了

企画・司会：竹村真一氏

Earth Literacy Program 代表
エコツェリア・コンテンツプロデューサー
地球大学アドバンス 総合企画・コーディネーター
京都造形芸術大学教授

会場：新丸ビル10階「エコツェリア」

地図：<http://ecozeria.jp/access.htm>

定員：50名(先着順：定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法：事前登録が必要です 以下のURLからお申し込みください
<http://www.ecozeria.jp/event/2011/06/42.html>

参加費：2000円

ただし、エコツェリア会員企業に所属の方は無料です
(照会いたしますので、名刺または社員証をお持ちください)